

構造設計標準仕様

※修正箇所は下線を引くこと
適用は ☒ 印を記入する。

1. 建築物の構造内容

- (1) 建築場所 多良間村字仲筋1449番地（森山氏）
- (2) 工事種別 ☒新築 ☐増築 ☐増改築 ☐改築
- (3) 構造種別
☐木造（W） ☐補強コンクリートブロック造（CB） ☐鉄骨造（S）
☒鉄筋コンクリート造（RC） ☐壁式鉄筋コンクリート造（WRC）
☐鉄骨鉄筋コンクリート造（SRC） ☐壁式プレキャスト鉄筋コンクリート造（WPRC）
☐プレキャスト鉄筋コンクリート造（PRC）
- (4) 階数
棟 地下 階 地上 1 階 塔屋 階
棟 地下 階 地上 階 塔屋 階
- (5) 主要用途 堆肥舎
- (6) 屋上付属物
☐高架水槽 ☐キュービクル kN ☐広告塔 ☐煙突
- (7) 特別な荷重
☐エレベータ 人乗（マシフルームレス ロープ式 油圧式）☐リフト kN ☐ホイスト kN
☐倉庫積載床用 kN ☐消火水槽 kN
- (8) 付帯工事
☐門扉 ☐換壁 ☐駐輪場 ☐機械式駐車場 ☐ ☐
- (9) 増築計画 ☐有（ ） ☒無
- (10) 構造計算ルート X方向ルート（ 1 ） Y方向ルート（ 1 ）

2. 使用構造材料一覧表

| 適用箇所 | 種類 | 設計基準強度 F _c =N/mm ² | 品質管理強度 R _m =N/mm ² | スランプ cm | 備考 |
|--------------|---|--|---|------------|-------------|
| 造コンクリート | <input checked="" type="checkbox"/> 普通 | <input type="checkbox"/> 15 <input type="checkbox"/> 18 <input type="checkbox"/> 21 | 18+0=18 | 15 | |
| 土間・大足りコンクリート | <input checked="" type="checkbox"/> 普通 | <input type="checkbox"/> 15 <input type="checkbox"/> 18 <input checked="" type="checkbox"/> 21 | 21+0=21 | 15 | |
| 基礎・地中梁 | <input checked="" type="checkbox"/> 普通 | <input type="checkbox"/> 21 <input checked="" type="checkbox"/> 24 <input type="checkbox"/> 27 <input type="checkbox"/> 30 | 24+3=27 | 15 | 水セメント比55%以下 |
| 柱・梁・壁 | <input checked="" type="checkbox"/> 普通 | <input type="checkbox"/> 21 <input checked="" type="checkbox"/> 24 <input type="checkbox"/> 27 <input type="checkbox"/> 30 | 24+3=27 | 15 | 水セメント比55%以下 |
| | <input type="checkbox"/> 普通 | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| 細骨材の種類 | <input checked="" type="checkbox"/> 砂 | <input checked="" type="checkbox"/> 山砂 <input type="checkbox"/> 人工 | | | |
| 細骨材の種類 | <input type="checkbox"/> 砂利 | <input checked="" type="checkbox"/> 砕石 <input type="checkbox"/> 人工 | | | |
| 水の区分 | <input type="checkbox"/> 水道水 | <input type="checkbox"/> 地下水 <input type="checkbox"/> 工業用水 | | | |
| 運和材料の種類 | <input checked="" type="checkbox"/> A E 減水剤 | <input type="checkbox"/> 高性能A E 減水剤 <input type="checkbox"/> コンクリート防錆剤（NR-1900同等品） | | | |
| 呼び強度を保証する材料 | <input checked="" type="checkbox"/> 28日 | <input type="checkbox"/> 56日 | | | |

※暑中コンクリートの適用を受ける期間に当る場合は、品質基準強度+3N/mm²とする。※単位水量は、185kg/m³以下とする。

- (2) コンクリートブロック（CB）
☐A種 ☐B種 ☐C種 厚☐100、 ☐120、 ☐150、 ☐190、

| 種類 | 径 | 使用箇所 | 継手工法 |
|-----------|---|---------------------------------------|------|
| 異形鉄筋 | <input checked="" type="checkbox"/> SD235A | D10～D16 | 継手一般 |
| | <input type="checkbox"/> SD235B | | |
| | <input checked="" type="checkbox"/> SD345 | D19 | 継手一般 |
| | <input type="checkbox"/> SD390 | D29～ | 継手一般 |
| 高強度せん断補強筋 | <input checked="" type="checkbox"/> KM785（SPR785） | K13（T13） | |
| | 丸 鋼 | <input type="checkbox"/> SR235 | |
| | 溶接金鋼（JIS G 3551） | <input checked="" type="checkbox"/> 棒 | |

| 種類 | 使用箇所 | 現場溶接 | 備考 |
|---|------|---|----|
| <input type="checkbox"/> SS400 <input type="checkbox"/> SM400 <input type="checkbox"/> SN400A <input type="checkbox"/> SN400B | | <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 0.9F <input type="checkbox"/> 1.0F | |
| <input type="checkbox"/> SN490B <input type="checkbox"/> STKR400 <input type="checkbox"/> | | <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 0.9F <input type="checkbox"/> 1.0F | |
| <input type="checkbox"/> BSCR295 <input type="checkbox"/> BSCP235 <input type="checkbox"/> | | <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 0.9F <input type="checkbox"/> 1.0F | |
| <input type="checkbox"/> SM490C <input type="checkbox"/> SNR490B <input type="checkbox"/> SNR490 | | <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 0.9F <input type="checkbox"/> 1.0F | |
| <input type="checkbox"/> SSC400 <input type="checkbox"/> | | | |

○使用箇所の詳細については別途図示とする。

- (5) ボルト
☐高力ボルト
☐普通：F8T ☐S10T ☐認定品（☐M16、☐M20、☐M22、☐M24）
☐中ボルト
M 高力ボルトすべり係数試験 ☐要 ☐否
M 高力ボルト導入張力確認試験 ☐要 ☐否
☐アンカーボルト
☐SNR400 M L= mm ナット（☐シングル、☐ダブル）
☐SSR400 M L= mm ナット（☐シングル、☐ダブル）
☐頭付スタッドボルト
φ= mm 使用箇所（☐柱 ☐大梁 ☐小梁）
φ= mm 使用箇所（☐柱 ☐大梁 ☐小梁）

- (6) 屋根、床、壁
☐ALC板 壁厚 ☐スライド構法 ☐ボルト止め構法 ☐ロッキング構法
☐折版 H= 厚
☐デッキプレート 型式 厚
☐嵌め込み式瓦葺きキャップ工法2点固定 材質：フッ素ガルバリウム鋼板 t=0.4mm
☐ステンレスシーム溶接工法（H35、@265）材質：F191系ステンレス t=0.4mm
☒厚1.3塩ビ畜産波板

☒普通型枠

3. 地盤

(1) 地盤調査資料と調査計画
☒有（☒敷地内 ☐近隣） ☐無（調査計画 ☐有 ☐無）

| 調査項目 | 資料有り | 調査計画 | 調査項目 | 資料有り | 調査計画 | 調査項目 | 資料有り | 調査計画 |
|----------------|------|------|--------|------|------|--------|------|------|
| ボーリング調査 | 有り | | 静的貫入試験 | | | 標準貫入試験 | | |
| 水平地盤反力係数の測定 | | | 土質調査 | | | 物理探査 | | |
| 試験堀（支持層の確認） | | | 平板載荷試験 | | | 液状化判定 | | |
| スウェーデン式サウンディング | | | 現場透水試験 | | | PS探層 | | |

注）上記表中の資料が有るもの、調査計画が有るものに○を記入する。

(2) ボーリング標準貫入値、土質構成（基礎・杭の位置を明記すること） ※別紙による

| 深度 | 土質 | N値 | 標準貫入試験 | | |
|----|----|----|--------|----|----|
| 0 | | | 0 | 10 | 20 |
| 1 | | | 30 | 40 | 50 |
| 2 | | | 60 | | |
| 3 | | | | | |
| 4 | | | | | |
| 5 | | | | | |
| 6 | | | | | |
| 7 | | | | | |
| 8 | | | | | |
| 9 | | | | | |
| 10 | | | | | |
| 11 | | | | | |
| 12 | | | | | |
| 13 | | | | | |
| 14 | | | | | |
| 15 | | | | | |
| 16 | | | | | |
| 17 | | | | | |
| 18 | | | | | |
| 19 | | | | | |
| 20 | | | | | |
| 21 | | | | | |
| 22 | | | | | |
| 23 | | | | | |
| 24 | | | | | |
| 25 | | | | | |

図面参照

注）地盤調査及び試験杭の結果により、杭長さ、杭種、直接基礎の深さ、形状を変更する場合もある。

4. 地業工事

- (1) 直接基礎 ☐ベタ基礎 ☐布基礎 ☒独立基礎 試験堀 ☒有 ☐無
深さG Lー1,300 支持層ー琉球石灰岩 長期許容支持力 150 kN/m² 載荷試験 ☒有 ☐無

- (2) 杭基礎 支持層

| 杭種 | 材料 | 施工法 | 備考 |
|---|---|--|--------------------|
| <input type="checkbox"/> RC <input type="checkbox"/> PRC <input type="checkbox"/> PHC <input type="checkbox"/> H鋼 <input type="checkbox"/> 鋼管 <input type="checkbox"/> 摩擦杭 <input type="checkbox"/> SC杭 | PRC（ <input type="checkbox"/> I種 <input type="checkbox"/> II種 <input type="checkbox"/> III種 <input type="checkbox"/> IV種） PHC（ <input type="checkbox"/> A種 <input type="checkbox"/> B種 <input type="checkbox"/> C種） 鋼材 <input type="checkbox"/> SS400 <input type="checkbox"/> SKK400 <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> 打ち込み（「バ」-「ン」併用打撃工法） <input type="checkbox"/> 埋込み（セメントミルク工法） <input type="checkbox"/> ハイパーMEGA工法 節杭（認定工法） <input type="checkbox"/> 又は同等工法 | PRC105 |
| <input type="checkbox"/> 場所打ち コンクリート杭 | コンクリート F _c N/mm ² スランプ セメント量 kg/m ³ 鉄筋 主筋 SD HOOP SD | <input type="checkbox"/> オールケーシング <input type="checkbox"/> 底底杭 <input type="checkbox"/> リバースサーキュレーション <input type="checkbox"/> アースドリル <input type="checkbox"/> ミニアース <input type="checkbox"/> BH <input type="checkbox"/> 深礎 <input type="checkbox"/> 手掘 <input type="checkbox"/> 機械掘 | 認定 第 号 年 月 日 |

杭仕様 ☐施工計画書承認 ☐杭施工結果報告書

試験杭（☐有・☐無）（☐打ち込み・☐載荷・☐孔壁測定） 9 本

| 杭径（mm） | 設計支持力（kN） | 杭の先端の深さ（m） | 本数 | 特記事項 |
|--------|-----------|------------|----|------|
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

- (3) 地盤改良工事

- ☐浅層地盤改良工法
☐深層混合処理工法

5. 鉄筋コンクリート工事（施工方法等計画書）

本標準仕様書及び鉄筋コンクリート構造配筋標準図はコンクリートの設計基準強度（F_c）が21N/mm²以上、かつ、36N/mm²以下に適用する。

- (1) コンクリート
- コンクリートはJIS認定工場の製品とし、施工に関しては、標準図に記載されている事項を除きJASS5による。
 - 耐久設計基準強度 F_d ☒一般 ☐標準 ☐長期
 - セメントは、JIS R5210の普通ポルトランドセメントを標準とする。
 - 調合計画は、工事開始前に工事監理者の承認を得ること。
 - 寒中、暑中、その他特殊コンクリートの適用を受ける期間に当る場合は、調合、打ち込み、養生、管理方法など必要事項について、工事監理者の承認を得ること。
 - フレッシュコンクリートの塩化物測定は、原則として工事現場で（財）国土開発技術研究センターの技術評価をうけた測定器を用いて行い、試験結果の記録及び測定器の表示部を一回の測定ごとに撮影した写真（カラー）を保管し承認を得る。
測定検査の回数は、通常の場合、1日1回以上とし、1回の検査における測定試験は、同一試料から取り分けて3回行い、その平均値を試験値とする。【試験回数は、公共建築工事標準仕様書（最新版）による。】
 - 構造体コンクリートについて現場の圧縮強度試験供試体（JASS5T-603）は、現場水中養生、または現場封かん養生とし、採取は、打ち込み区ごと、打ち込み日ごととする。
また、打込み量が150 m³をこえる場合は150 m³ごまたは、その端数ごとに一回を標準とする。
一回に採取する供試体は、適当な間隔をおいた3台の運搬車からその必要本数を採取する。なお、供試体の数量は、特別指示なき場合は、1回当り6本以上とし、そのうち4週用に3本を用いる。
 - ポンプ打ちコンクリートは、打ち込む位置にできるだけ近づけて垂直に打ち、コンクリートの自由落下高さはコンクリートが分離しない範囲とする。ポンプ圧送に際しては、コンクリート圧送技士または、同等以上の技能を有する者が従事すること。なお、打ち込み継続中における打継ぎ時間間隔の限度は、外気温が25℃以下の場合は90分以内、25℃を超える場合は60分以内とする。
 - 締固めは、ワリテ棒型振動機・型枠振動機または突き棒を用いて行い、鉄筋および埋設物などの周辺や型枠の隅々までコンクリートが充填され、密実なコンクリートが得られるように行う。
 - コンクリートの打継ぎ面は、レイトンス、脆弱なコンクリート、ゴミなどを取り除き、新たに打ち込むコンクリートと一体となるように処置する。
 - 打ち込み後のコンクリートは、透水性の小さいせき板による被覆、養生マットまたは水密シートによる被覆、散水・噴霧、膜養生剤の塗布などにより潤滑養生を行う。（期間は、JASS5の表8.1を参照）

- (2) 鉄筋

- 鉄筋はJIS G3112の規格品を標準とする。施工は、標準図に記載されている事項を除き、JASS5による。
- 高強度せん断補強筋は、JIS G3137に規定されるD種1号適合品とする。
- 鉄筋の加工寸法、形状、かぶり厚さ、鉄筋の継手位置、継手の重ね長さ、定着長さは「鉄筋コンクリート構造配筋標準図（1）（2）」または「壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図（1）（2）」による。
- D19未満は、すべて重ね継手とする。継手（D19以上）をガス圧接とする場合は、日本圧接協会「鉄筋のガス圧接工事標準仕様書」による。
- ガス圧接部の抜き取り検査は、同一作業班が同一日に施工した圧接箇所ごと（200箇所を超えるときは、200箇所ごと）に1回行い、1回の試験は5本以上とする。
外観検査 ☒有 ☐無 引張試験 ☐有 ☐無 超音波探傷試験 ☐有 ☐無
- 柱の帯筋（HOOP）の加工方法は、☒H型（タガ型） ☐W型（溶接型） ☐S型（スパイラル型）とする。
- コンクリート及び鉄筋の試験は「建築物の工事における試験及び検査に関する東京都取扱要綱」第4条の試験機関で行うこと。
試験機関名 沖縄県建設技術センター（都知事登録 号）
代行業者名
代行業者とは、試験・検査に伴う業務を代行するものを言う。

- (3) 型枠

- 材料 合板厚 12mmを標準とする。
- 施工 JASS5による。

- ☒型枠存置期間

| セメントの種類 | せき板 | | | 支 柱 | | |
|------------------|----------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|
| | 基礎、はり側、柱、壁 | スラブ下、はり下 | | スラブ下 | はり下 | |
| 早強ボルト ランドセメント | 早強ボルト ランドセメント | 早強ボルト ランドセメント | 普通ボルト ランドセメント | 早強ボルト ランドセメント | 普通ボルト ランドセメント | 早強ボルト ランドセメント |
| 高炉セメント A種 | 高炉セメント A種 | 高炉セメント A種 | シリカセメント A種 | 高炉セメント A種 | シリカセメント A種 | 普通ボルト ランドセメント |
| シリカセメント A種 | シリカセメント A種 | シリカセメント A種 | | シリカセメント A種 | 高炉セメント A種 | シリカセメント A種 |
| コンクリート | 15℃以上 | 2 | 3 | 4 | 6 | 8 |
| | 5℃～15℃ | 3 | 5 | 6 | 10 | 12 |
| | 5℃未満 | 5 | 8 | 10 | 16 | 28 |
| コンクリートの 圧縮強度 | 5.0N/mm ² | 設計基準強度の50% | | 設計基準強度の | | |
| | | | | 85% | | 100% |

- 注1 片持ばり、庇、スパン9.0m以上のはり下は、工事監理者の指示による。
注2 大ばりの支柱の盛りかえは行わない。また、その他ののはりの場合も原則として行わない。
注3 支柱の盛りかえは、必ず直上階のコンクリート打ち後とする。
注4 盛りかえ後の支柱顶部には、厚い受板、角材または、これに代わるものを置く。
注5 支柱の盛りかえは、小ばりが終わってから、スラブを行う。一時に全部の支柱を取り払って、盛りかえをしてはならない。
注6 上表以外のセメントを使用する場合は工事監理者の指示による。

6. 鉄骨工事（施工方法等計画書）

- (1) 鉄骨工事は指示のない限り下記による
- ☐ 日本建築学会「JASS6」「鉄骨精度検査基準」「鉄骨工事技術指針」
 - ☐ 社）日本鋼構造協会「建築鉄骨工事施工指針」
 - ☐ 鉄骨製作管理技術者登録機構「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」
- (2) 工事監理者の承認を必要とするもの
- ☐ 製作工場 ☐ 製作要領書 ☐ 工作図 ☐ 施工計画書
 - ☐ 認定または登録工場（大臣認定 グレード以上 都登録 T1 T2 T3ランク）
 - ☐ 材料規格証明書または試験成績書
☐ 鋼材 ☐ 高力ボルト ☐ 特殊ボルト ☐ 頭付スタッド
 - ☐ 社内検査表 ☐
- (3) 工事監理者が行う検査項目
（☒印以外の項目の検査結果については、工事監理者に報告すること）
- ☐ 現寸検査 ☐ 組立・開閉検査 ☐ 製品検査
 - ☐ 建方検査 ☐
- (4) 接合部の溶接は下記によること
- ☐ 鉄骨造等の建築物の工事に関する東京都取扱要綱（建築構造設計指針第12章）
 - ☐ 日本建築学会「溶接工作標準、同解説Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵ、Ⅶ、Ⅷ、Ⅷ」
 - ☐ 日本建築学会「鉄骨工事技術指針 工事現場施工編」
- (5) 接合部の検査
- ☐ 溶接部の検査（検査結果は後日工事監理者に報告すること）

| 検査箇所 | 検査方法 | 検査率又は検査数 | | | | 備 考 |
|--|-----------|-----------|-----|-------|---|-----|
| | | 社 内 | 第三者 | 工事監理者 | | |
| <input type="checkbox"/> 完全溶込み溶接部 (突合せ溶接) | 外観検査（※） | % 値 | % 値 | % 値 | ※平成12年建設省告示 第1464号第二号による (目視及び計測) ※試験箇所数は、JASS6に準ずる。 | |
| | 超音波探傷検査 | % 値 | % 値 | % 値 | | |
| | 内質検査（注） | % 値 | % 値 | % 値 | | |
| | マクロ試験・その他 | % 値 | % 値 | % 値 | | |
| <input type="checkbox"/> | 外観検査（※） | % 値 | % 値 | % 値 | | |
| 第三者検査機関名 | | （都知事登録 号） | | | | |
| 第三者検査機関とは、建築主、工事監理者又は工事施工者が、受入れ検査を代行させるために自ら契約した検査会社をいう。 | | | | | | |
| （注）東京都の要綱に基づき、必要となる建築物の場合に実施する。 | | | | | | |

- 注1）現場溶接部については原則として第三者検査機関による全数検査とし、外観検査、超音波探傷検査を100%行うこと
注2）知事が定めた重大な不具合が発生した場合は、是正前に対処策を建築主事等に報告すること
- ☐ 内質検査 ☐ 硬さ試験 ☐ 示温塗料塗布
 - ☐ 高力ボルトは「JIS B1186の高力ボルト」を標準とする。摩擦面の処理は黒皮などを座金外径2倍以上の範囲でショットブラスト、グライNDER掛け等を用いて除去した後、屋外に自然放置して発生した、赤さび状態であること。ただし、ショットブラスト、グリットブラストによる処理で表面あらさが50S以上である場合は、赤さびは発生しないままでよい。

- ☐ 高力ボルトの締付けに使用する機器はより整備されたものを使用し、締付けの順序は部材が十分密着するように注意して行う。また、締付けは一次、二次締めとする。
締付け後の検査は、各締付け工法別に適切な締付けが行なわれているか検査する。

- (6) 防錆塗装

- ☐ 防錆塗装の範囲は、高力ボルト接合の摩擦面及びコンクリートで被覆される以外の部分とする。錆止めのペイントは、☐JIS K5621、☐JIS K5625、☐を使用して、4つ星2回塗りを標準とするが、実状に応じて決定すること。
- ☐ 現場における高力ボルト接合部及び接合部の素地調査は急に行い、塗装は工場塗装と同じ錆止めペイントを使用し2回塗りとする。

- (7) 耐火被覆の材料

☐

7. 設備関係

- ☒ 特記以外の梁貫通孔は原則として設けない、設ける場合は設計者の承認を得ること。
- ☒ 設備機器の架台及び基礎については工事監理者の承認を得ること。
- ☒ 床スラブ内に設備配管等を埋込む場合はスラブ厚さの1/3以下とし管の間隔を管径の3倍以上かつ5cm以上を原則とする。
☐ 第129条の2の4の1項
☐ 第129条の2の4の2項
☐ 第129条の2の4の3項

8. その他

- ☒ 諸官庁への届出書類は遅滞なく提出すること。
- ☒ 各試験の供試体は公的試験機関にて試験を行い工事監理者に報告すること。
- ☒ 必要に応じて記録写真を撮り保管すること。

森山氏：堆肥舎

| | | | | | | |
|------|------------------|-----|-----|-------|---------------------|--|
| 工事名称 | 宮多地区堆肥舎建築工事 | | | 工事年度 | 令和 5 年度 | |
| 工事場所 | 多良間村字仲筋1449番地 | | | 図面名称 | 構造設計標準仕様 | |
| 発注機関 | 公益財団法人 沖縄県農業振興公社 | | | 縮 尺 | noscale | |
| 摘 要 | | | | 図面番号 | S-01 | |
| | | | | 名 称 | 建築設計a i r | |
| 備 考 | 管理建築士 | 設 計 | 製 図 | 資格者氏名 | 下 地 秀 政 | |
| | | | | 登録番号 | 一級建築士 登録 第 313070 号 | |
| | | | | 所 在 地 | 宮古島市平良字下里1201-6(1階) | |

鉄筋コンクリート構造配筋標準図（１）

１．一般事項

- (1) 構造図面に記載された事項は、本標準図に優先して適用する。
- (2) 記号
- d 異形棒鋼の呼び名に用いた数値 丸鋼では径 D 部材の成 R 直径 @ 間隔
r 半径 C 中心線 L 部材間の寸法距離 h o 部材間の内法高さ
S T スターラップ H O O P 帯筋 S・H O O P 補強帯筋 ϕ 直径又は丸鋼

２．鉄筋加工、かぶり

(1) 鉄筋末端部の折曲げの形状

| 折曲げ角度 | 1 8 0 ° | 1 3 5 ° | 9 0 ° | 折り曲げ角度 9 0 ° はスラブ筋・壁筋の末端部又はスラブと同時に打ち込む T 型及び L 型梁のキャップタイにのみ用いる。 ※片持スラブ上端筋の先端 |
|--|---------|-------------------|-------------------|---|
| 図 | | | | |
| 鉄筋の余長 | 4 d 以上 | 6 d 以上 (※ 4 d 以上) | 8 d 以上 (※ 4 d 以上) | |
| 折曲げ内法寸法 R は、SR 2 3 5 は 3 d 以上、SD 2 9 5 A、SD 2 9 5 B、SD 3 4 5 の D 1 6 以下は、3 d 以上、D 1 9 以上は 4 d 以上 | | | | |

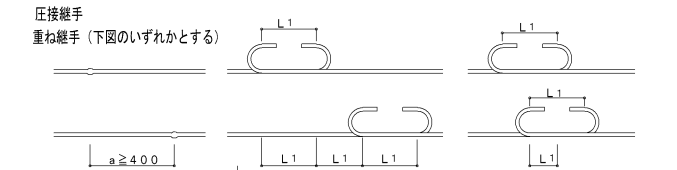
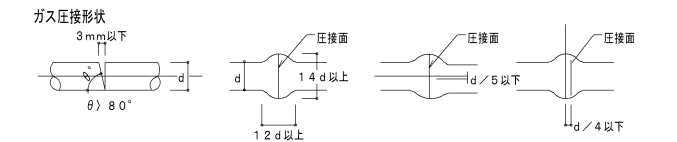
(2) 鉄筋中間部の折曲げの形状 鉄筋の折曲げ角度 9 0 ° 以下

| 図 | 鉄筋の使用箇所による呼称。 | 鉄筋の種類 | 鉄筋の径による区分。 | 鉄筋の折り曲げ内のり寸法。(R) |
|---|----------------------|--|--|----------------------------|
| | 帯筋 あばら筋 スパイラル筋 | SR 2 3 5、SD 2 9 5 A SD 2 9 5 B、SD 3 4 5 | 1 6 ϕ 以下 D 1 6 1 9 ϕ 以下 D 1 9 | 3 d 以上 |
| | 上記以外の鉄筋 | SR 2 3 5、SD 2 9 5 A SD 2 9 5 B、SD 3 4 5 | 1 6 ϕ 以下 1 9 ϕ ~ 2 5 ϕ D 1 9 ~ D 2 5 2 8 ϕ ~ 3 2 ϕ D 2 9 ~ D 3 8 | 4 d 以上 6 d 以上 8 d 以上 |

(3) 鉄筋の定着及び重ね継手の長さ

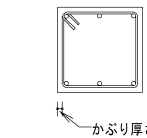
| 鉄筋の種類 | 普通、軽量コンクリートの設計基準強度 F c (N / mm ²) | 定着の長さ | | | | | | |
|--------------------------------------|---|----------------|----------------|----------------|----------------|-------------------|-------|---------|
| | | (L 1) | | | (L 2) | | | (L 3) |
| | | フックなし | フック付 | フックなし | フック付 | フックなし | フック付 | |
| SD 2 9 5 A SD 2 9 5 B SD 3 4 5 | 18 21 24 27 30 33 36 | 4.5 d 4.0 d | 3.5 d 3.0 d | 4.0 d 3.5 d | 3.0 d 2.5 d | 2.5 d かつ 50 mm 以上 | 1.5 d | — |
| SD 3 9 0 | 21 24 27 30 33 36 | 4.5 d 4.0 d | 3.5 d 3.0 d | 4.0 d 3.5 d | 3.0 d 2.5 d | | | |

- 継手
1. 末端のフックは、定着及び重ね継手の長さに含まない。
 2. 継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする。
 3. 直径の異なる鉄筋の重ね継手長さは、細い方の鉄筋の継手長さとする。
 4. 鉄筋径の差が、5 mm を超える場合は、圧接としてはならない。
 5. 軽量コンクリートの場合は、表の値に 5 d を加えたものとする。



(4) かぶり厚さ (単位：mm)

ひび割れ誘発目地部など鉄筋のかぶり、厚さが部分的に減少する箇所についても最小かぶり厚さを確保する。

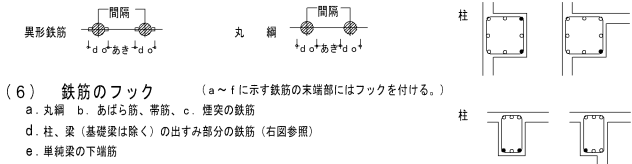


| 部 位 | | 設計かぶり厚さ (mm) | 最少かぶり厚さ (mm) |
|----------|---------------|-----------------|-------------------|
| 土に接しない部分 | 屋根スラブ | 屋 内 3 0 | 3 0 (2 0) |
| | 床スラブ | 屋 外 4 0 (1) | 3 0 (2 0) |
| | 非耐力壁 | 屋 内 4 0 | 3 0 |
| | 柱 | 屋 外 5 0 (2) | 4 0 (1) (3 0) |
| | 耐力壁 | 擁 壁 5 0 (3) | 4 0 |
| 土に接する部分 | 柱・はり・床スラブ・耐力壁 | 5 0 | 4 0 (4) |
| | 基礎 擁 壁 | 7 0 | 6 0 (4) |

- 〔注〕
- (1) 耐久性上有効な仕上げのある場合、工事監理者の承認を受けて 3 0 mm とすることができる。
 - (2) 耐久性上有効な仕上げのある場合、工事監理者の承認を受けて 4 0 mm とすることができる。
 - (3) コンクリートの品質および施工方法に応じ、工事監理者の承認を受けて 4 0 mm とすることができる。
 - (4) 軽量コンクリートの場合は、1 0 mm 増しの値とする。
 - (5) () 内は仕上げがある場合、改定により標準かぶり厚さは 1 0 mm 増し

(5) 鉄筋のあき

丸鋼では径、異形鉄筋では呼び名に用いた数値 1. 5 d 以上
縦骨材の最大寸法の 1. 2 5 倍以上かつ 2 5 以上



(6) 鉄筋のフック

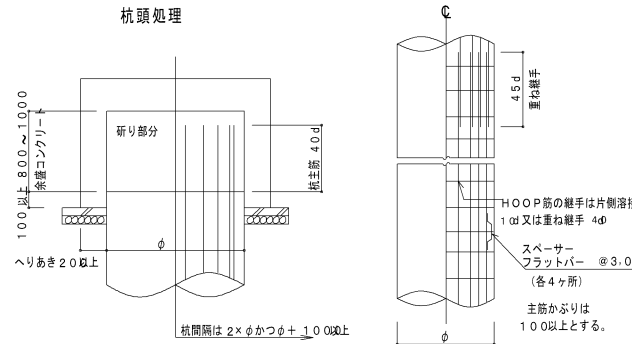
- (a ~ f に示す鉄筋の末端部にはフックを付ける。)
- a. 丸鋼
 - b. あばら筋、帯筋、c. 煙突の鉄筋
 - d. 柱、梁 (基礎梁は除く) の出すみ部分の鉄筋 (右図参照)
 - e. 単独梁の下端筋
 - f. その他、本配筋標準に記載する箇所

３．杭 (地震力等の水平力を考慮する必要がある場合は、別途検討すること。)

(1) P C 杭、又は P H C 杭の全てに補強を行う

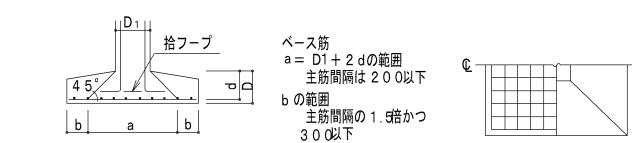
| 所定位置に止まった場合 | 所定より低く止まった場合 |
|----------------|-------------------|
| | |
| 杭 径 3 0 0 ϕ 以下 | 3 5 0 ϕ ~ 4 0 0 ϕ |
| 補強筋 4 - D 1 3 | 6 - D 1 3 |
| H O O P | D 1 0 - 1 0 0 @ |

(2) 現場打ちコンクリート杭

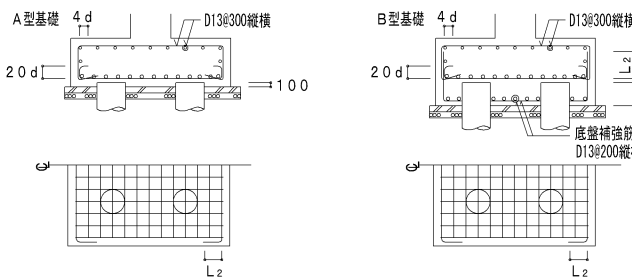


４．基 礎

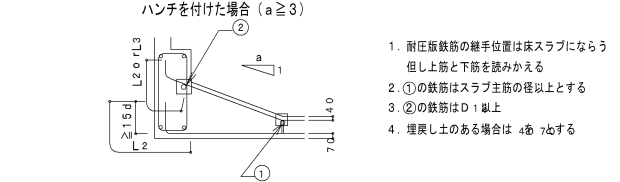
(1) 直接基礎



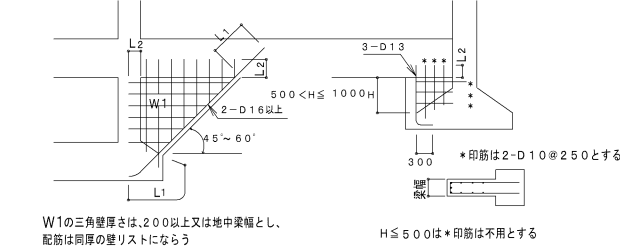
(2) 杭基礎



(3) ベタ基礎

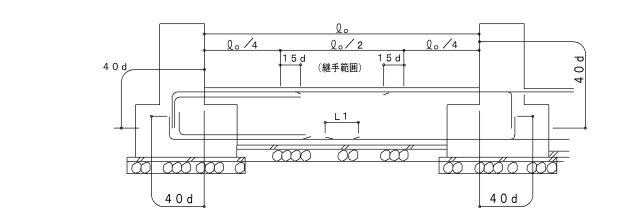


(4) 基礎接合部の補強

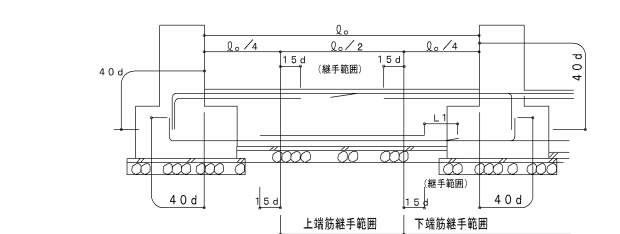


５．地 中 梁

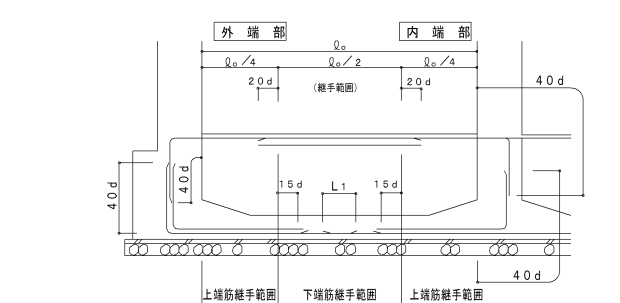
(1) 独立基礎、杭基礎の場合 (定着、継手)



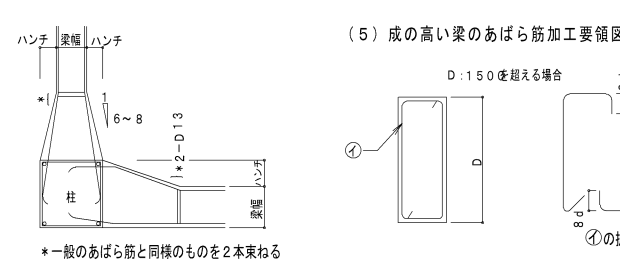
(2) 独立基礎で基礎梁にスラブが付く場合 (定着、継手)



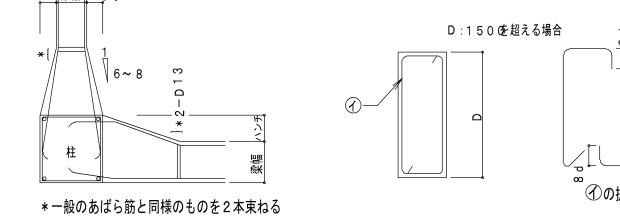
(3) 布基礎、べた基礎の場合 (定着、継手)



(4) 水平ハンチの場合のあばら筋加工要領

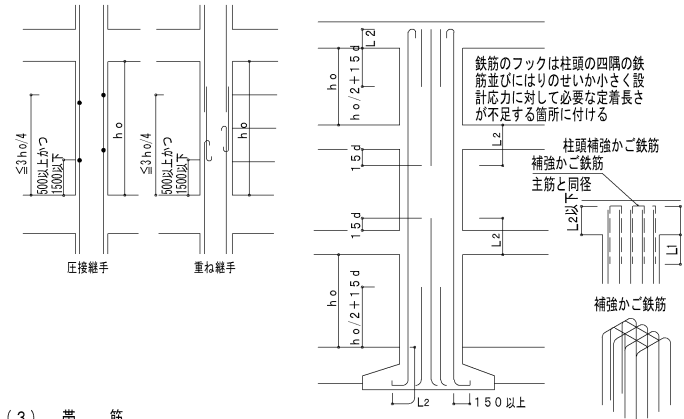


(5) 成の高い梁のあばら筋加工要領図

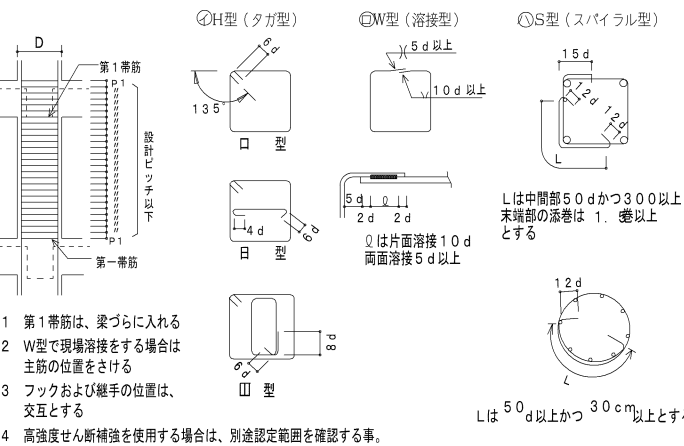


６．柱

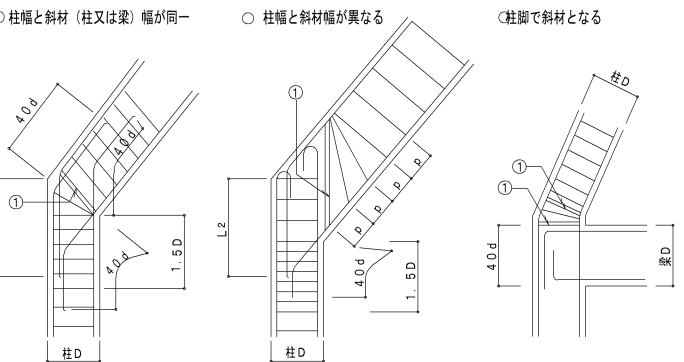
(1) 柱主筋の継手



(3) 帯筋

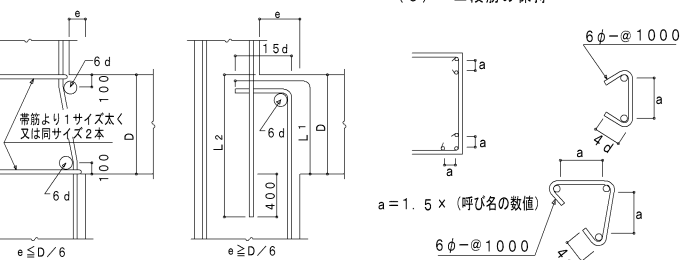


(4) 斜め柱・斜め梁

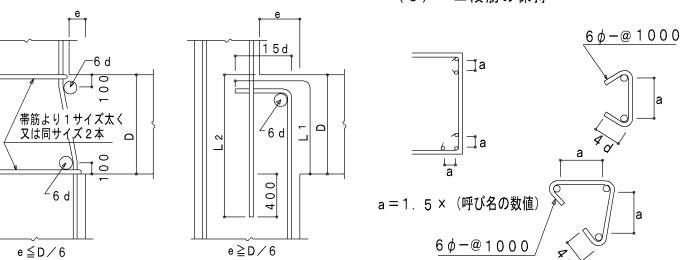


- 注 1 1. 5D の範囲の柱の帯筋は一段太いものか、又はダブル巻きとし @ 1 0 0 以下とする。
- 注 2 ① の鉄筋は 2 - D 1 3 かつ、2 本の一段太い鉄筋とする。

(5) 絞り



(6) 二段筋の保持



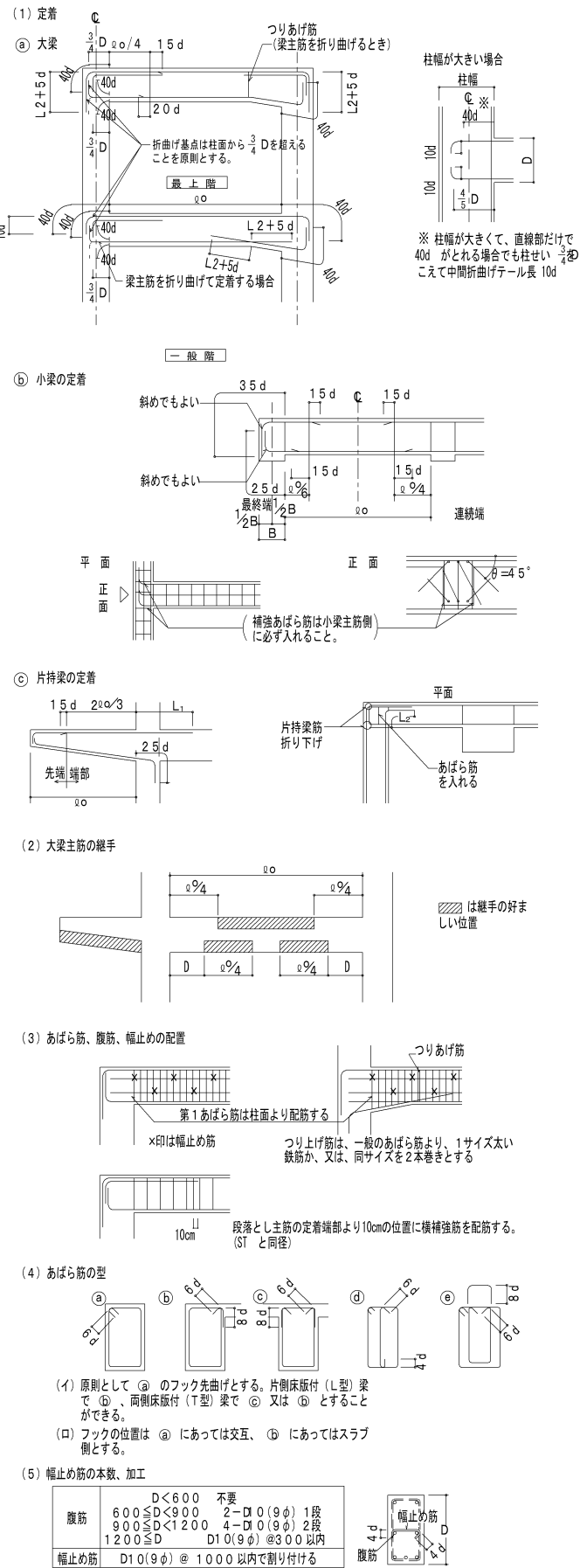
森山氏：堆肥舎

| | | | |
|------|------------------|-------|---------------------|
| 工事名称 | 宮多地区堆肥舎建築工事 | 工事年度 | 令和 5 年度 |
| 工事場所 | 多良間村字仲筋1449番地 | 図面名称 | 鉄筋コンクリート構造配筋標準図（１） |
| 発注機関 | 公益財団法人 沖縄県農業振興公社 | 縮 尺 | noscale |
| 適 要 | 管理建築士 設 計 製 図 | 図面番号 | S-02 |
| | | 名 称 | 建築設計 a i r |
| 備 考 | | 資格者氏名 | 下 地 秀 政 |
| | | 登録番号 | 一級建築士 登録 第313070号 |
| | | 所 在 地 | 宮古島市平良字下里1201-6(1階) |

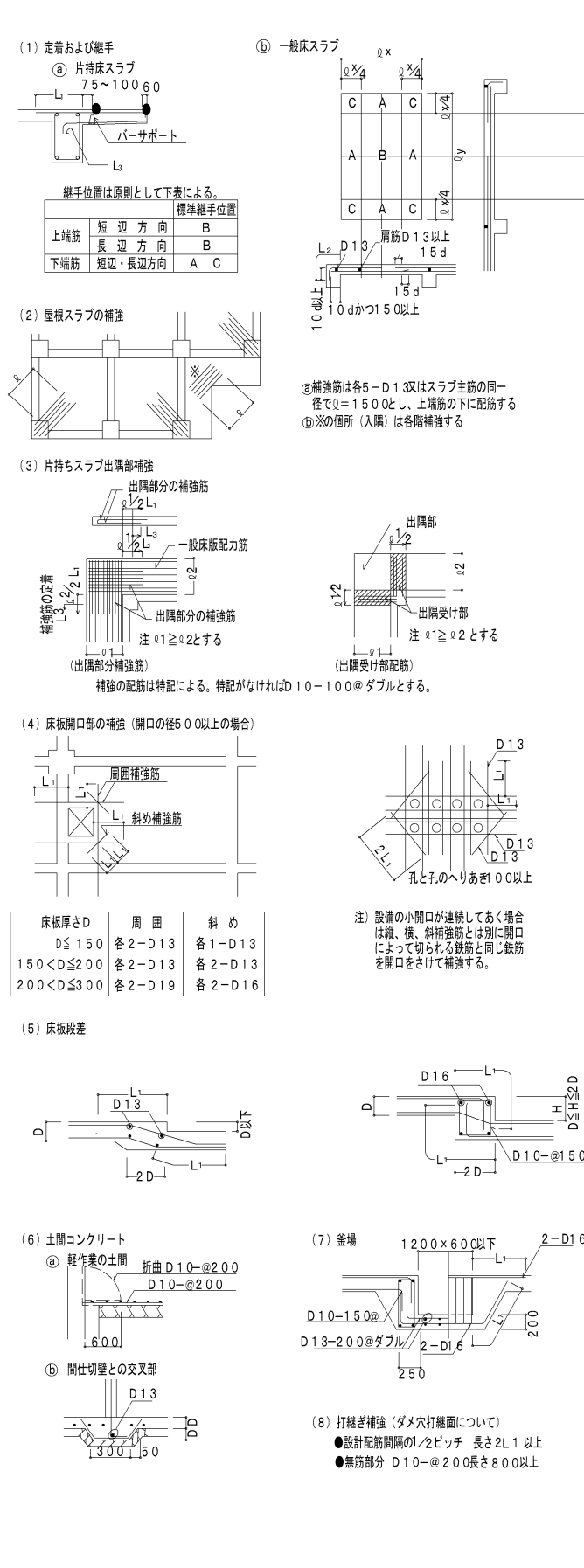
鉄筋コンクリート構造配筋標準図（２）

L＝鉄筋コンクリート構造配筋
標準図（１）の２－（３）による。

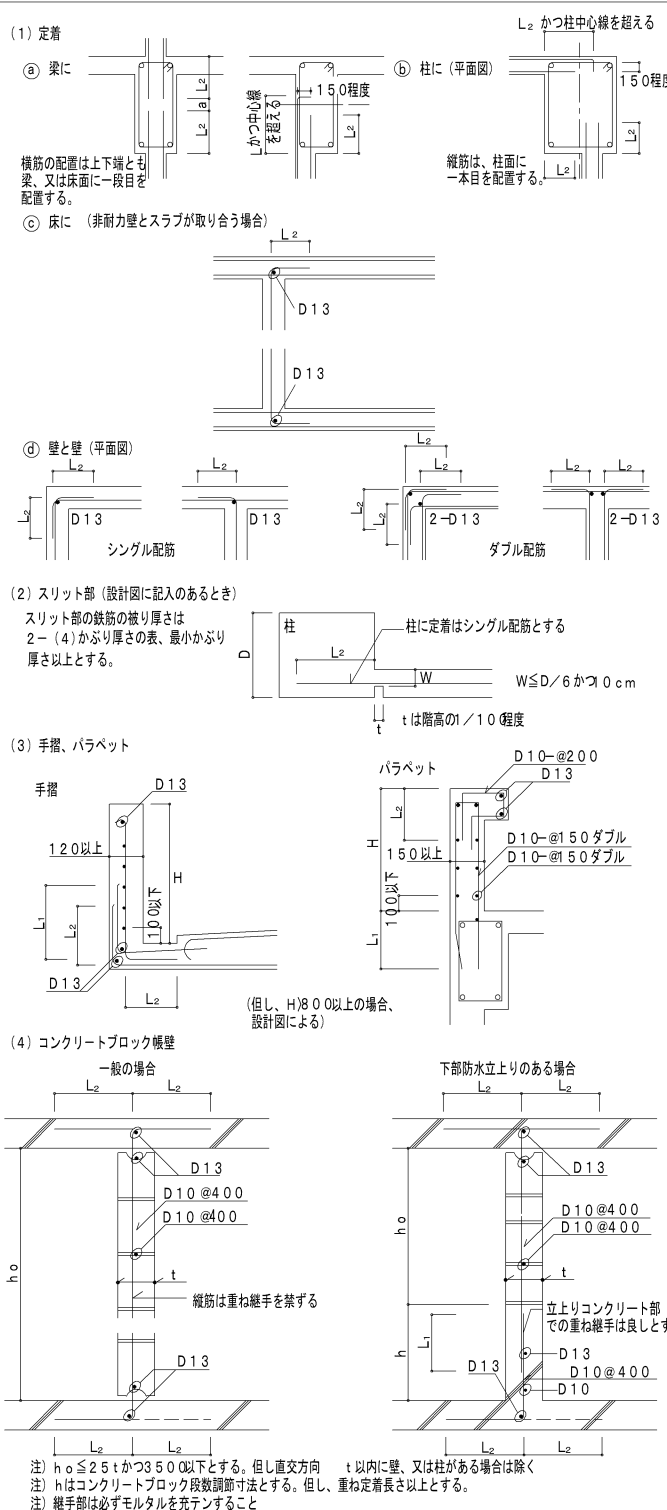
7. 大梁、小梁、片持梁



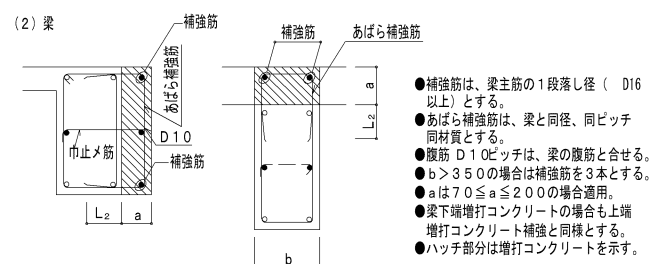
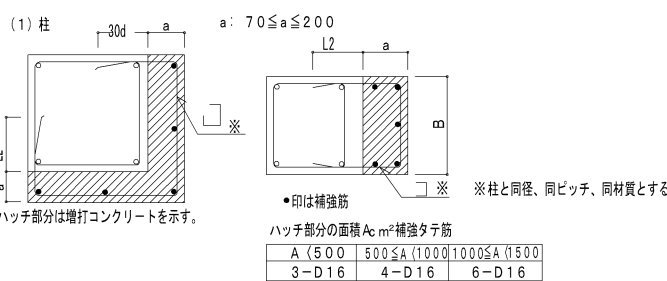
8. 床板



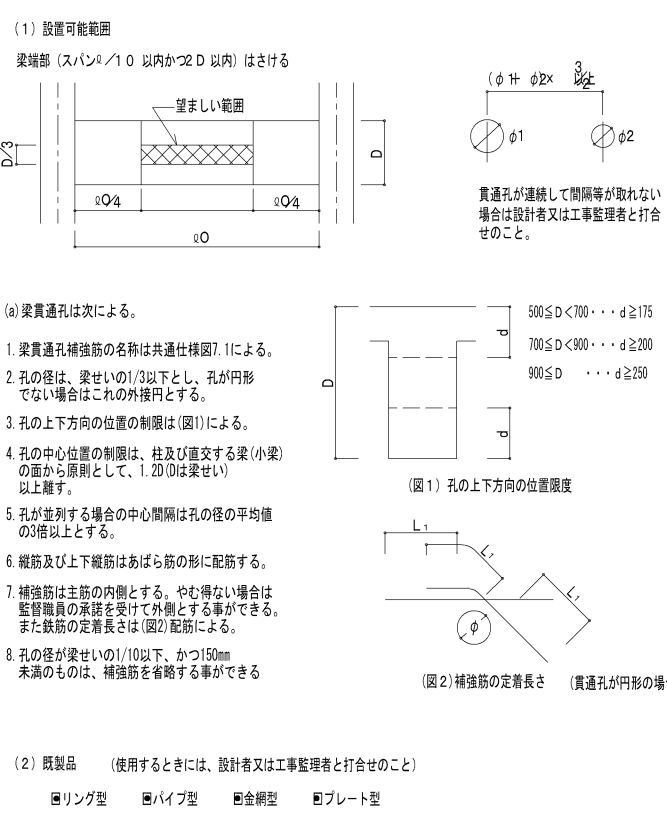
9. 壁



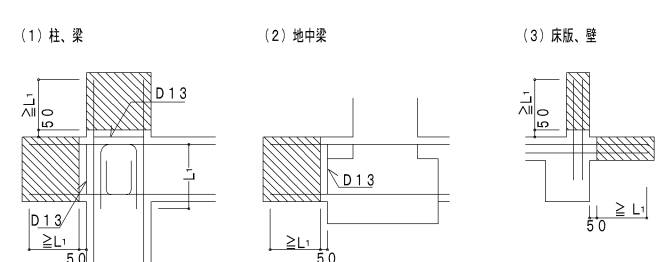
10. 柱、梁増打コンクリート補強



11. 梁貫通孔補強



12. 増築予定



森山氏：堆肥舎

| | | | |
|------|------------------|-------|--|
| 工事名称 | 宮多地区堆肥舎建築工事 | 工事年度 | 令和 5 年度 |
| 工事場所 | 多良間村字仲筋1449番地 | 図面名称 | 鉄筋コンクリート構造配筋標準図（２） |
| 発注機関 | 公益財団法人 沖縄県農業振興公社 | 縮 尺 | noscale |
| 適 要 | | 図面番号 | S-03 |
| 備 考 | 管理建築士 設 計 製 図 | 設 計 者 | 名 称 建築設計 a i r 資格者氏名 下 地 秀 政 登録番号 一級建築士 登録 第313070号 所 在 地 宮古島市平良字下里1201-6(1階) |


ボーリング柱状図

調 査 名 : 宮多地区建築設計委託業務

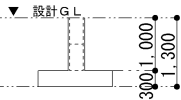
事業・工事名：

[illegible]

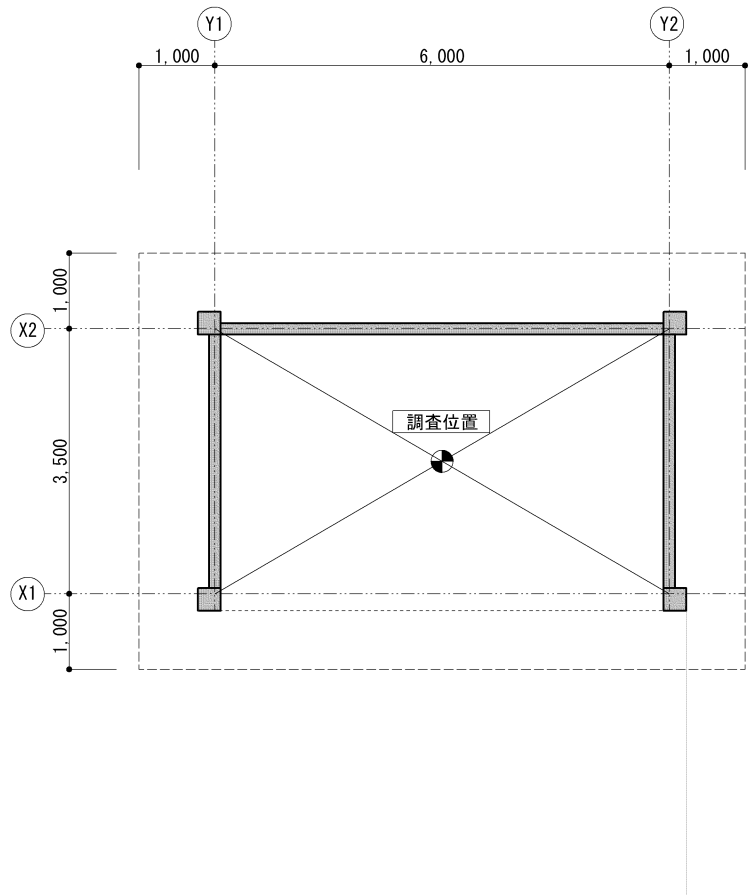
シートNo. 1

| | | | | | | | | | | | |
|-----------|---|--------------------------|---|------|----------------------------|------------------------------|---------------|--|--------------|----------|-----------------|
| ボーリング名 | 森山英樹堆肥舎 | | 調査位置 | | 宮古島市多良間字仲筋1449 | | | | 北 緯 | | |
| 発 注 機 関 | 建築設計 a i r | | | | 調査期間 | 令和 4年11月 29日 ~ 令和 4年 11月 29日 | | | | 東 経 | |
| 調 査 業 者 名 | 宮古ボ-リング調査 宮古島市平良字荷川越486-4 TEL:0980-79-0321 | | | 主任技師 | | 現 場 代 理 人 | コ ア 鑑 定 者 | | 上原 拓海 | ボーリング責任者 | 地質調査技士 上原 浩人 |
| 孔 口 標 高 | KBM-0.00 -0.18 m | 海 上 90° 下 0° |  | | 地盤傾斜計図 水平 0° 鉛 直 90° | 試 錐 機 | YBM05-DA-2 | | ハンマー 落下用具 | | 半自動落下型 |
| 総 掘 進 長 | 5.00 m | 取 | | | | エンジン | YANMAR TF90EV | | ポン プ | | YS-302 |

| 掘 | 造 | 月 | 日 | 室内試験（ ） | 採取試料 | | 原位置試験 | | 試験人 | | | | | | | | | | 記 | 事 | 相 | 相 | 色 | 土 | 柱 | 深 | 層 | 標 | 標 | 尺 | | | | | | | | | | | |
|---|-------|------|------|---------|------|---|-------|--------|---|---------------------|--|--|--------------|-------------|-----------------|------|------|----|-------|------|-------|------|------|----|----|----|-------|------|------|------|---|---|-------|------|------|------|---|---|------|---|---|
| | | | | | 探 | 取 | 方 | 法 | 深 | 試験名 および結果 | 深 | 度 | 打撃回数 | 貫入量 (mm) | 10cmごとの 打撃回数 | 深 | 度 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | 試 | | | | | | | | | | | | | 料 | 番 | 号 | 度 | 度 | 回 | 量 | の | 回 | の | の |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | -1.28 | 1.10 | 1.10 | 埋土 | 砂 | 塊 | 状 | 黄白色～白色 | 1.0cmはコンクリート数。 以深は暗褐色粘土を主体とし、石灰岩礫を含む礫混じり粘土。 層相から埋土と推定される。 | 中礫～粗礫を主体とした砂礫状を呈する。 | 全体的に固結状態であるが、空隙を多く含む。 コアはLmax=35cm程度で比較的脆い。 | 層中の所々に10cm程度の岩塊状コアが見えるが、全体的に中礫～粗礫を主体とした砂礫状を呈する。 出現N値は15から50以上で相対密度は中位～非常に密な」の範囲にある。 | 孔内水位は確認されない。 | 1.15 | 1.45 | 5 | 4 | 22 | 31/30 | 2.00 | 2.00 | 3.15 | 3.45 | 16 | 12 | 22 | 50/30 | 4.15 | 4.45 | 5 | 3 | 7 | 15/30 | 5.15 | 5.24 | 50/9 | - | - | 50/9 | | |
| 2 | -1.68 | 0.40 | 1.50 | 礫 | 塊 | 状 | 砂 | 塊 | 状 | 黄白色～白色 | 全体的に固結状態であるが、空隙を多く含む。 コアはLmax=35cm程度で比較的脆い。 | 層中の所々に10cm程度の岩塊状コアが見えるが、全体的に中礫～粗礫を主体とした砂礫状を呈する。 出現N値は15から50以上で相対密度は中位～非常に密な」の範囲にある。 | 孔内水位は確認されない。 | 2.00 | 2.00 | 3.15 | 3.45 | 16 | 12 | 22 | 50/30 | 4.15 | 4.45 | 5 | 3 | 7 | 15/30 | 5.15 | 5.24 | 50/9 | - | - | 50/9 | | | | | | | | |
| 3 | -2.88 | 1.20 | 2.70 | 礫 | 塊 | 状 | 砂 | 塊 | 状 | 黄白色～白色 | 全体的に固結状態であるが、空隙を多く含む。 コアはLmax=35cm程度で比較的脆い。 | 層中の所々に10cm程度の岩塊状コアが見えるが、全体的に中礫～粗礫を主体とした砂礫状を呈する。 出現N値は15から50以上で相対密度は中位～非常に密な」の範囲にある。 | 孔内水位は確認されない。 | 2.00 | 2.00 | 3.15 | 3.45 | 16 | 12 | 22 | 50/30 | 4.15 | 4.45 | 5 | 3 | 7 | 15/30 | 5.15 | 5.24 | 50/9 | - | - | 50/9 | | | | | | | | |
| 4 | -2.88 | 1.20 | 2.70 | 礫 | 塊 | 状 | 砂 | 塊 | 状 | 黄白色～白色 | 全体的に固結状態であるが、空隙を多く含む。 コアはLmax=35cm程度で比較的脆い。 | 層中の所々に10cm程度の岩塊状コアが見えるが、全体的に中礫～粗礫を主体とした砂礫状を呈する。 出現N値は15から50以上で相対密度は中位～非常に密な」の範囲にある。 | 孔内水位は確認されない。 | 2.00 | 2.00 | 3.15 | 3.45 | 16 | 12 | 22 | 50/30 | 4.15 | 4.45 | 5 | 3 | 7 | 15/30 | 5.15 | 5.24 | 50/9 | - | - | 50/9 | | | | | | | | |
| 5 | -5.42 | 2.54 | 5.24 | 礫 | 塊 | 状 | 砂 | 塊 | 状 | 黄白色～白色 | 全体的に固結状態であるが、空隙を多く含む。 コアはLmax=35cm程度で比較的脆い。 | 層中の所々に10cm程度の岩塊状コアが見えるが、全体的に中礫～粗礫を主体とした砂礫状を呈する。 出現N値は15から50以上で相対密度は中位～非常に密な」の範囲にある。 | 孔内水位は確認されない。 | 2.00 | 2.00 | 3.15 | 3.45 | 16 | 12 | 22 | 50/30 | 4.15 | 4.45 | 5 | 3 | 7 | 15/30 | 5.15 | 5.24 | 50/9 | - | - | 50/9 | | | | | | | | |
| 6 | | | | 礫 | 塊 | 状 | 砂 | 塊 | 状 | 黄白色～白色 | 全体的に固結状態であるが、空隙を多く含む。 コアはLmax=35cm程度で比較的脆い。 | 層中の所々に10cm程度の岩塊状コアが見えるが、全体的に中礫～粗礫を主体とした砂礫状を呈する。 出現N値は15から50以上で相対密度は中位～非常に密な」の範囲にある。 | 孔内水位は確認されない。 | 2.00 | 2.00 | 3.15 | 3.45 | 16 | 12 | 22 | 50/30 | 4.15 | 4.45 | 5 | 3 | 7 | 15/30 | 5.15 | 5.24 | 50/9 | - | - | 50/9 | | | | | | | | |
| 7 | | | | 礫 | 塊 | 状 | 砂 | 塊 | 状 | 黄白色～白色 | 全体的に固結状態であるが、空隙を多く含む。 コアはLmax=35cm程度で比較的脆い。 | 層中の所々に10cm程度の岩塊状コアが見えるが、全体的に中礫～粗礫を主体とした砂礫状を呈する。 出現N値は15から50以上で相対密度は中位～非常に密な」の範囲にある。 | 孔内水位は確認されない。 | 2.00 | 2.00 | 3.15 | 3.45 | 16 | 12 | 22 | 50/30 | 4.15 | 4.45 | 5 | 3 | 7 | 15/30 | 5.15 | 5.24 | 50/9 | - | - | 50/9 | | | | | | | | |



- ※ 支持力 $q_a = 150 \text{ KN/m}^2$
- ※ 支持層 N 値 : 15 以上.
- ※ 支持層 : 琉球石灰岩.

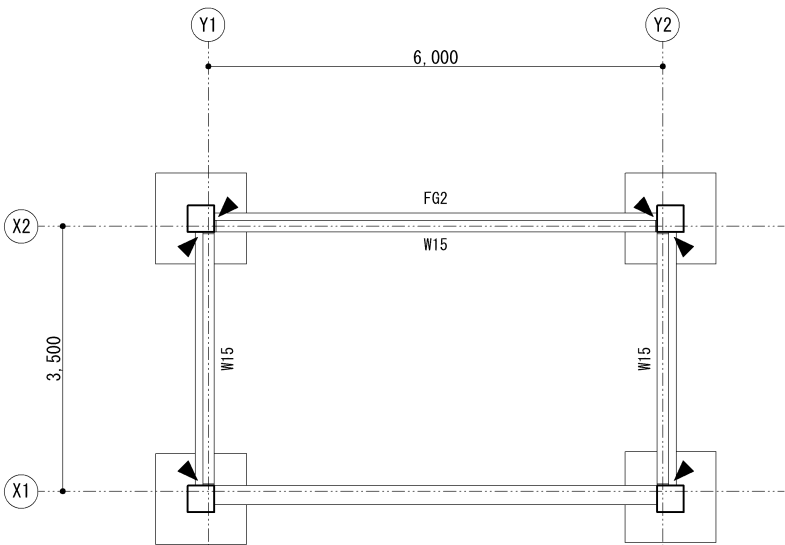


地質調查位置

A1:1/50·A3:1/100

森山氏：堆肥舎

| | | | | | | | |
|------|-------|------------------|-----|-------------|-----------------------------|---------------------|--|
| 工事名称 | | 宮多地区堆肥舎建築工事 | | 工事年度 | 令和 5 年度 | | |
| 工事場所 | | 多良間村字仲筋1449番地 | | 図面名称 縮 尺 | 柱状図 A1:S=1/50・A3:S=1/100 | | |
| 発注機関 | | 公益財団法人 沖縄県農業振興公社 | | 図面番号 | S-04 | | |
| 摘 要 | | | | 設 計 者 | 名 称 | 建築設計 a i r | |
| 備 考 | 管理建築士 | 設 計 | 製 図 | | 資格者氏名 | 下 地 秀 政 | |
| | | | | | 登録番号 | 一級建築士 登録 第 313070 号 | |
| | | | | | 所 在 地 | 宮古島市平良字下里1201-6(1階) | |

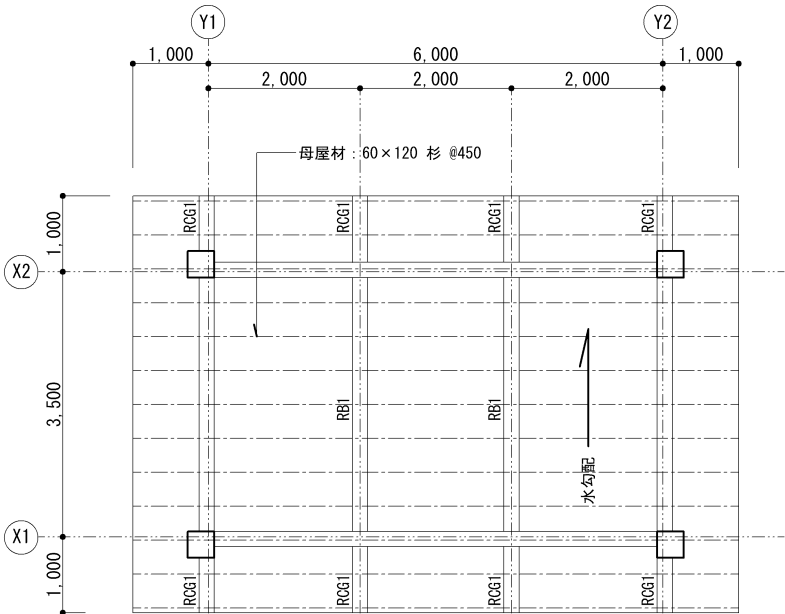


■ 特記事項

- ※ 表示無き柱はC 1とする。
- ※ 表示無き梁はF G 1とする。
- ※ 表示無き基礎はF 1とする。
- ※ ▼は構造スリット (W=25mm)

基礎伏図

A1:1/50・A3:1/100



■ 特記事項

- ※ 表示無き梁はR G 1とする。

梁伏図

A1:1/50・A3:1/100

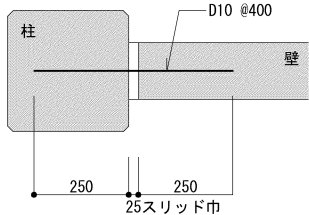
■ 梁リスト

A1:1/30・A3:S1/60

| 符 号 | F G 1 | F G 2 | R G 1・R B 1 | R C G 1 |
|-------|-----------|-----------|-------------|-----------|
| 位 置 | 全断面 | 全断面 | 全断面 | 全断面 |
| 断 面 | | | | |
| 断面寸法 | 250×500 | 250×500 | 200×500 | 200×300 |
| 上端筋 | 2-D19 | 4-D19 | 2-D19 | 2-D19 |
| 下端筋 | 2-D19 | 4-D19 | 2-D19 | 2-D19 |
| S T P | □-D10@200 | □-D10@200 | □-D10@200 | □-D10@150 |
| 腹 筋 | - | - | - | - |
| 幅止筋 | - | - | - | - |

※ 最上階柱頭筋の定着は配筋標準図(1)6.柱(2)に準ずること。

※ 柱、梁仕口内フープ筋およびピッチは設計配筋と同等とし、配筋標準図(1)6.柱(3)に準ずること。



■ 構造スリット配筋図

- ※ スリットは完全スリットとし、資料を提出して係員の承認を得ること。
- ※ スリット材は、耐震性・耐久性・止水性に優れた製品を使用すること。
- ※ スリット材は、耐火認定スリットとする。

■ 柱リスト

A1:1/30・A3:S1/60

| 符 号 | C 1 |
|------|----------|
| 断 面 | |
| 断面寸法 | 350×350 |
| 主 筋 | 8-D19 |
| 帯 筋 | D10-@100 |
| 備 考 | |

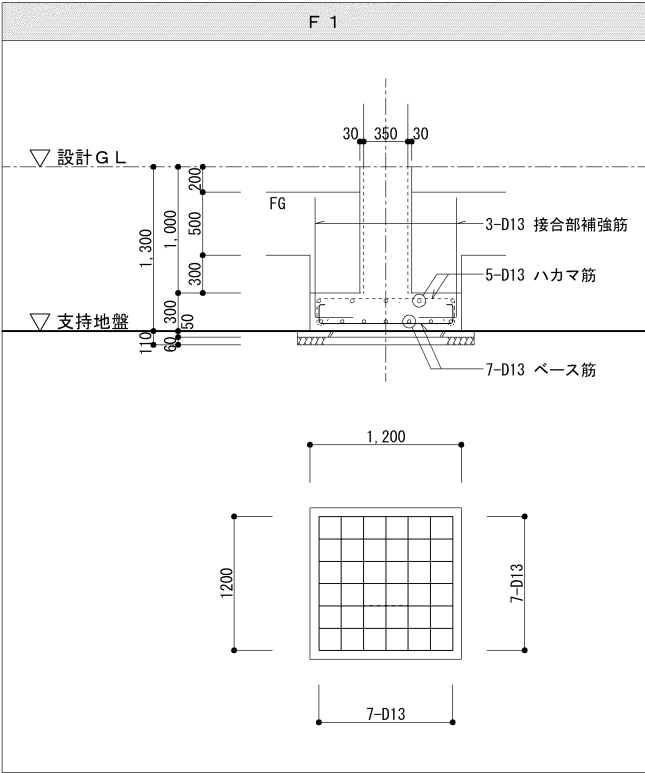
■ 壁リスト

A1:1/30・A3:S1/60

| 符 号 | W 1 5 |
|---------|-------------------------------------|
| 壁 厚 | 150 |
| 断 面 | |
| 縦 筋 | D10-@200 |
| 横 筋 | D10-@200 |
| 開 口 補強筋 | 縦 筋 2-D13 横 筋 2-D13 斜 筋 2-D13 |
| 端部補強筋 | 2-D13 |

■ 基礎リスト

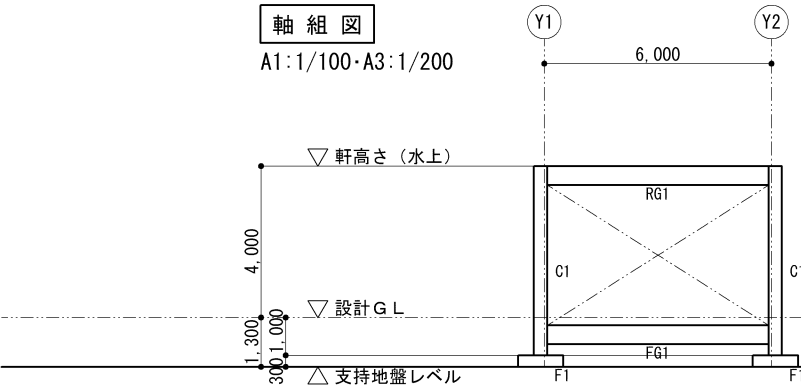
A1:1/30・A3:S1/60



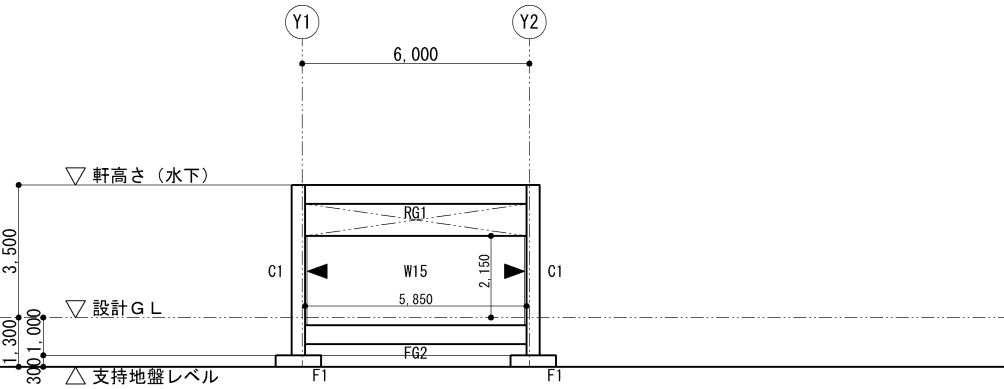
※ 基礎と地中梁の接合部の補強は配筋標準図(1)4.基礎(4)に準ずること。

軸組図

A1:1/100・A3:1/200



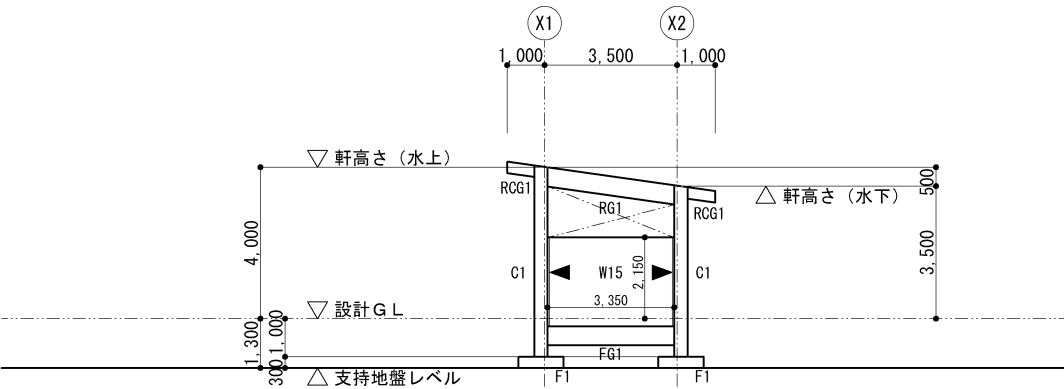
X1 軸組図



X2 軸組図

■ 特記事項

- ※ ◀は構造スリット (W=25mm)



Y1、Y2 軸組図

| | | | | | |
|------|------------------|-----|-----|---------|---------------------|
| | | | | 森山氏：堆肥舎 | |
| 工事名称 | 宮多地区堆肥舎建築工事 | | | 工事年度 | 令和 5 年度 |
| 工事場所 | 多良間村字仲筋1449番地 | | | 図面名称 | 伏せ図・部材リスト・軸組図 |
| 発注機関 | 公益財団法人 沖縄県農業振興公社 | | | 縮 尺 | 図 示 |
| 摘 要 | | | | 図面番号 | S-05 |
| | | | | 名 称 | 建築設計 a i r |
| 備 考 | 管理建築士 | 設 計 | 製 図 | 資格者氏名 | 下 地 秀 政 |
| | | | | 登録番号 | 一級建築士 登録 第 313070 号 |
| | | | | 所 在 地 | 宮古島市平良字下里1201-6(1階) |